

## 本学駅伝プロジェクトの取り組み（新チームの発足）

Action of J.F. Oberlin University EKIDEN project

(Launch of the new team)

武田 一<sup>※1</sup>

キーワード： 桜美林大学，陸上競技部，箱根駅伝

### はじめに

2014年10月18日，第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会<sup>注)</sup>にて本学が初出場を果たした（写真1）。結果は29位（出場48校）と目標であった「チーム記録を残すこと」「30番以内に入ること」を達成した（表1）。多くの新生チームは初年度10名以上の選手の確保が難しく出場に2年かかっているが，本学は1年生だけのチームということでメディアでも大きく取り上げられた。予選会出場にあたり急遽，教職員，OACU（桜美林大学体育文化団体連合会）の有志で応援団が結成され300名以上の方がコースに散らばり応援を行った。加えスタート前後にはチアリーディング部，吹奏楽団が集団応援を行い大いに盛り上がりを見せた。また，多くの方は「観る・支えるスポーツ Day！」として午後には昭島市民球場で行われた首都大学野球リーグの応援に参加した。このことはスポーツ推進センターのミッション「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」に向け大きな一歩となった。

先立つ2013年4月，駅伝プロジェクトは真也加ステファン氏を駅伝監督に招聘しスタートした。プロジェクトの大きな柱は「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」ことであり，地域の方を含めてみんなで応援できるチームをつくることを目的としている。選手がいないチームにおいて2013年はリクルーティング活動が中心となり，予選会に出場できる人数，最低10人の選手の確保が大きな課題であった。プロジェクト発足当初は新規参入チームに興味を示す高校の先生方は多くいたが，選手を紹介してくれることはほとんどなかった。しかし，毎週のように全国の陸上競技大会や高校に足を運んだ結果，最終的に16名の部員の確保ができた。その内訳は，大学特別選抜（スポーツ選抜）で12名，AO入試，一般入試，センター入試などで合格した4名である。

そして，2014年4月1日付で指導スタッフに日清食品グループ陸上競技部で活躍していた治郎丸健一（スポーツ推進センター）氏がコーチとして加わり，チームとしての形は整いつつある。

---

※1 TAKEDA, Hajime 桜美林大学総合科学系，スポーツ推進センター

駅伝チームの夢は箱根駅伝出場であるが、それをかなえる第一歩として2014年の目標は箱根駅伝予選会に出場、10人以上完走しチーム記録を残し歴史に第一歩を示すことであった。

本研究の目的は、新チームを発足するにあたりその経緯と現在行われている活動を報告するとともに、今後、桜美林らしいチームに成長し箱根駅伝に出場するための方策を考察することである。

なお、本文に掲載されている研究対象者には、研究の内容及び方法等を説明し、理解を求めたうえ、個人情報等が掲載される旨、同意を得て協力していただいている。

注) 第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(通称、箱根駅伝予選会)は、陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし立川市街をとおり国営昭和記念公園をゴールとする20kmのロードレースである。本大会の出場は上位10名の合計タイムが少ない10位以内の大学である。選手の出場資格は平成25年1月1日より平成26年10月1日までに5000mを16分30秒以内もしくは10000mを34分以内の公認記録をトラックで有する者がエントリーできる。エントリーは10名以上14名以下とし出場人数は10名以上12名以下である。本学は、2名参加標準記録を突破できなかったため13名のエントリーで12名出場した。



(写真1) 箱根駅伝予選会で力走する選手たち  
(2014.10.18 陸上自衛隊立川駐屯地にて)

表 1 第 61 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会の結果 (2014.10.18)

チーム順位： 29 位 (48 チーム中)、成績：11 時間 06 分 06 秒							
	個人順位	記録	名前	学群	学年	出身高校	
	1	58	1:00:57	ラザラス モタンヤ	健康福祉	1	BORUMA (ケニア)
	2	269	1:04:58	小高 真基	健康福祉	1	加藤学園 (静岡)
	3	322	1:05:57	吉川 健真	健康福祉	1	中京 (岐阜)
	4	338	1:06:24	南 裕也	健康福祉	1	九州学院 (熊本)
	5	370	1:07:04	森山 隆秀	健康福祉	1	飾磨工 (兵庫)
	6	383	1:07:23	高橋 啓	健康福祉	1	愛知 (愛知)
	7	394	1:07:44	和田 海希	健康福祉	1	新島学園 (群馬)
	8	422	1:08:18	南 拓哉	ビジネスマネジメント	1	富山商 (富山)
	9	423	1:08:19	星 喬暁	リベラルアーツ	1	日本工業大学駒場 (東京)
	10	440	1:09:02	菅原 宙斗	健康福祉	1	北上翔南 (岩手)
	11	465	1:10:02	富田 寛治	健康福祉	1	飛騨高山 (岐阜)
	12	515	1:12:05	萬上 和海	リベラルアーツ	1	雪谷 (東京)

## 選手のプロフィール

駅伝チーム第 1 期生 16 名の選手が 2014 年 3 月 15 日に入寮し共同生活をおくっている (2014.10.18 現在, 15 名)。出身地区は, 東北 1 名, 関東 4 名, 北信越 1 名, 東海 5 名, 近畿 2 名, 九州 2 名, ケニア 1 名と全国にわたっている。所属学群は, 健康福祉学群健康科学専修 11 名, リベラルアーツ学群 4 名, ビジネスマネジメント学群 1 名である。陸上競技の経験としては, 駅伝の名門校から 8 名, 長距離専門の指導者がいない高校から 8 名で, 自己記録も 5000 m を 14 分 14 秒から 17 分 06 秒までと実力差があるチームでのスタートとなった。リクルーティングで真也加監督が確認していた点は, ハングリー精神を持っていることと卒業後社会で活躍するため大学で勉強をすることであった (写真 2)。



(写真2) 入寮式後 (2014.3.15 第二国際寮にて)

## 治郎丸 (じろまる) 健一コーチのプロフィール

1984年10月1日鳥取県で生まれる。小学校ではサッカー好きな少年時代をおくり倉吉市立東中学校でもサッカー部に入部。中学駅伝の校内選抜チームに選ばれ練習をするとその才能は開花され1年生の11月より陸上競技部に入部。高校は陸上競技の名門校、由良育英高等学校(現:鳥取中央育英高等学校)に入学。全国高等学校駅伝競走大会(京都12月開催)では、2年生でアンカーの7区、3年生では準エース区間の3区を走り区間8位の好成績をあげた。山梨学院大学をはじめ多くの大学からリクルーティングがあったが、2003年に駅伝の名門校、駒澤大学に進学した。大学1,2年時は喘息や怪我に苦しむが3年の夏を越えると記録も伸び4年の9月に一関国際ハーフマラソンで初優勝。4年生で出場した第83回東京箱根間往復駅伝競走(2007.1.3)ではチームが失速し熾烈なシード権争いとなるなか、まかされたアンカーの10区(区間5位)を冷静にラスト5kmでスパート。シード権争いを制しゴール直前でアナウンサーが「治郎丸が泣いています」と実況されたのは有名なエピソードである。

その後、走ることをやめ一般企業に就職したが、2008年2月に駒澤大学の先輩が立ち上げた市民ランナーチーム AC.NANKUL に誘われ、駅伝大会やロードレースに出場すると市民駅伝で優勝し長距離走の楽しみを再度感じる事となる。市民ランナーとして徐々に仕事と練習を両立させると記録が伸び始めた。そして、日本体育大学長距離競技会に出場していたところを駒澤大学の恩師大八木監督に声をかけられ大分県大分東明高校陸上競技部のコーチとして紹介されることとなった。

2009年4月、平松学園大分東明高校に職員として採用され、高校生とともに練習し寮

監督としてプレイングコーチの生活は始まった。その実力は大分県でも認められ第 58 回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大会（2009.10.19-11.7：10 日間）に大分県代表として出場することとなった。出場した 4 回全て区間賞（区間新 1 つ）を獲得する大活躍で新人賞に輝いた。この活躍がきっかけとなり長距離駅伝の強豪チーム、日清食品グループ陸上競技部からリクルーティングされ 2010 年より実業団の選手として本格的な活動が始まった。また、その人望から 2011-2012 年にキャプテンを任されている。ベスト記録（表 2）、個人種目の主な成績（表 3）、駅伝での主な成績（表 4）は以下のとおりである。

表 2 ベスト記録

距離	タイム	年	大会名
5000 m	13 分 57 秒 57	2010	第 206 回日本体育大学長距離競技会
10000 m	28 分 16 秒 49	2011	ホクレン・ディスタンス・チャレンジ 2011 深川大会
ハーフマラソン	63 分 44 秒	2010	第 50 回記念大会大分合同ロードレース
マラソン	2 時間 15 分 24 秒	2014	第 69 回びわ湖毎日マラソン大会

表 3 個人種目の主な成績

	大会名	種目	成績	所属
2006	第 25 回一関国際ハーフマラソン	ハーフマラソン	優勝	駒澤大学
2009	第 34 回熊本甲佐 10 マイル公認ロードレース大会	10 マイル	9 位	大分東明高校職員
2010	第 52 回東日本実業団陸上競技選手権大会	5000 m	26 位	日清食品グループ
	第 53 回札幌国際ハーフマラソン	ハーフマラソン	29 位	
2011	第 53 回東日本実業団陸上競技選手権大会	10000 m	10 位	
	第 59 回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会	10000 m	19 位	
2012	第 54 回東日本実業団陸上競技選手権大会	5000 m	17 位	
	第 96 回日本陸上競技選手権大会	10000 m	32 位	
2013	2013 北海道マラソン	マラソン	31 位	
2014	第 54 回唐津 10 マイルロードレース大会	10 マイル	11 位	
	第 69 回びわ湖毎日マラソン大会	マラソン	21 位	
	第 37 回武相マラソン	ハーフマラソン	優勝	

表 4 駅伝の主な成績

年	大会名	区間	成績	チーム順位
2001	第 52 回全国高等学校駅伝競走大会	7	13 位	14 位
2002	第 53 回全国高等学校駅伝競走大会	3	8 位	14 位
2007	第 83 回東京箱根間往復駅伝競走	10	5 位	7 位
2010	第 58 回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大 (1 日目)	1	1 位	5 位
	第 58 回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大 (5 日目)	6	1 位 (区間新)	
	第 58 回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大 (7 日目)	5	1 位	
	第 58 回西日本各県対抗九州一周駅伝競走大 (9 日目)	1	1 位	
2011	第 55 回全日本実業団対抗駅伝競走大会	5	2 位	3 位
	第 16 回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 (鳥取県代表)	3	22 位	36 位
	第 64 回十和田八幡平駅伝競走全国大会	3	5 位	7 位
	第 52 回東日本実業団対抗駅伝競走大会	7	3 位	優勝
2012	第 53 回東日本実業団対抗駅伝競走大会	6	3 位	2 位

## 本学と治郎丸コーチ

2013 年度の本学駅伝チームの課題は、選手のリクルーティングに加え、コーチングスタッフの選定であった。新チームを立ち上げることが情報として広まると何人もの方が名乗りを上げてきたが、スタッフの人は慎重を期した。基準としては、本学の建学の精神、本プロジェクトのミッションを理解、賛同し真也加監督をサポートできる人物である。その結果、真也加監督が選手時代 (ダイエー陸上競技部) の監督白水昭興氏 (現、日清食品グループ陸上競技部監督) から推薦された治郎丸氏に決定した。治郎丸氏は苦勞して実業団に入るなど人生経験豊かでありケニア人選手とのかかわり方も経験しているのが強みである。また、人生観、選手の指導方針も本学の部長・監督に沿っている。

後日、山梨学院大学上田監督に報告に伺うと、「治郎丸は(山梨学院に)勧誘して断られた。それがここにいる。縁だな」とおっしゃられた。いかにも縁を大切にしている上田監督の言葉であった。

## 住環境

淵野辺駅前の第二国際寮の南側 3DK 部分を使用している。各部屋には、トイレ、バス、キッチン (電磁調理器付)、電子レンジ、ポット、冷蔵庫があり、共有スペースには、コ

インランドリー、アイシング用の製氷機がある。また、2Fの食堂はミーティング、寮合宿での食事などで使用している。加え、2Fのスタッフルーム(3DK)はトレーナー活動、給水・給食の準備、スタッフの宿泊などに使用している。

疲労回復のため練習後30分以内に食事をとる必要があるため以下の学内施設を食堂として使用している。朝食はPFCのPrism Caféでとり食後の清掃活動も交代で自主的に行っている。昼食は各自である。夕食は老実館1Fの食堂でとり、練習などで遅くなる場合は弁当にしている。日曜日以外の月～土曜日に学内施設を利用し食事をとっている。

## 練習環境

ホームグラウンドの桜グラウンドには、オールウェザーの直走路120m×2レーンと60m×4レーン、一周約300mの人工芝がある(写真3)。主に、集合、準備運動、ジョギング、練習後の快調走、補強運動などに使用している。

本学には周回のトラック走路がないため本練習は主に近隣の陸上競技場にて練習を行っている。移動の往復は走って、または学園車を使用している。主に使用するグラウンドは、町田市立野津田公園陸上競技場(寮から約6km)、相模原ギオンスタジアム(相模原麻溝公園陸上競技場:同約6km)である。両競技場が使用できないときは八王子市立上柚木公園陸上競技場に車で移動している。

長い距離を走る距離走では、起伏のある舗装された尾根緑道(往復約16km)、平坦で土の淵野辺公園ジョギング走路(約1,800m)、平坦で舗装された境川沿い、平坦でオールウェザーの相模原ギオンスタジアム外周(800m)などを使用している。自然豊かな環境のため選手の練習環境としては良い環境である。



(写真3)

## 練習環境の問題点

近隣の陸上競技場は、週末、サッカーや陸上競技の大会が入っていることも多く競技場の確保が困難なことも多い。また、使用料（野津田1回300円/人、ギオン同200円/人）がかかるため主に使用する野津田公園陸上競技場では年間券（9,000円/人）を購入している。

そして、一番の問題点は、近隣の方からの苦情である。多くの方は「桜美林頑張れ」と応援していただくことが多いが、中には集団で走っていることに不快感をもたれる方もいる。そのためなるべく人の多い時間帯を避ける、歩行者を避けて走る、大人数で走らない、挨拶をするなど対応をしている。この問題には多くの大学が苦慮している。特に夏の早朝練習時は歩行者が多くいるため練習場所の確保に苦慮している。また、秋から冬の日没が早くなる季節ではランニングコースの暗さが危険を伴う可能性がある。

このようなことから、今後、四学年そろい部員数が増えるにあたり、練習環境の向上と近隣の方とのトラブルを避けるため専用のトラック、クロスカントリーコースなどの整備が不可欠となると考える。

## 週のスケジュール

朝練習は火曜日から日曜日（日曜日は各自で行う）に行っている。5時過ぎには起床し第二国際寮から桜グラウンドへウォークやジョギングで移動。5時50分から動きづくり、6時から朝練習が開始される。起伏のある尾根緑道、平坦な境川などで集団走または個人で50～70分位ランニングを行う。その後、桜グラウンドで快調走など各自行う。また、火曜日には近隣の急な坂を使いダッシュ走を行っている。なお、練習は天候に関係なく行っている。

朝食は7時30分からPrism Caféでとり、学園のバス、自転車、徒歩などで授業に向かう。本練習は4時限目終了後に行っている。黎明館の部室に荷物を置き、桜グラウンドで16時20分から動きづくり、16時30分に集合し本練習が始まる。5時限目以降に授業がある選手は空き時間に各自で行っている。主に水曜日と土曜日に競技場でのポイント練習。他の日は尾根緑道などでの距離走はバリエーションをつけながら行っている。月曜日のみ各自での練習である。

夕食は18時30分から老実館でとり、その後、寮へ帰宅し、授業の準備・課題の作成、各部屋でのマッサージなど各自で行っている。門限は22時である。

## サポーターの存在

駅伝プロジェクトが開始され多くの方の支えがある。



箱根駅伝の注目度により他大学が莫大な予算を使う中、予算が限られている本プロジェクトには、駅伝サポーターからの寄付金はとても大切なものである。主な用途は留学生への支援、長期にわたる合宿費、治療代などである。多くの方の支援が本プロジェクトの活動を支えチーム力の向上へとつながっている。

食事を管理している（株）ナルドでは栄養士をつけ長距離選手に適切な食事の提供していただいている。調理をしている Prism Café、老実館食堂の皆さんも非常に協力的であり選手がリラックスして食事をとる環境を整えて下さっている。

栄養指導をボランティアで行っていただいている酵素栄養学のTAMAYO（（株）エンプラス）氏は、町田に在住し町田のチームを応援したいとボランティアで食事の講義、体重管理などを行っていただいている。疲労時、吸収率の良い食べ物、食べ物の順番など正しい食事の方法など学び選手たちは実践している。また、月1回栄養相談を行い町田の母として寮生活をする選手たちに心身ともに相談に乗っていただいている。

トレーナーは週2回（月、木）（株）ケッツトレーナーから派遣していただき体のメンテナンスを行い、加え選手自ら体を整える方法の指導を受けている。

長くつらいであろう夏の強化合宿の直前には、長福寺の三橋皓揮（文学部健康心理学科2007年度卒）副住職にお越しいただき「なぜ競技を続けるのか」という題で講演をしていただいた（写真4）。「これまでの人生を振り返り、何を大切に生きてきたか、これからの人生をどう生きていきたいのか」など生き方について学び気づかせてくれた講義であった。



（写真4）長福寺三橋皓揮副住職の講演（2014.8.11 第二国際寮にて）

夏の強化合宿においては、山梨学院大学のBチームの合宿に参加し強豪校の練習を勉強させていただいた。1年目のチーム作りが大切であるという上田監督の経験からご厚意によって合同合宿が行われた。

予選会出場が決まり応援を計画していただいた志村総務部長をはじめ応援団として参加いただいたチアリーディング部、吹奏楽団の皆さんに加え学生、教職員、卒業生、近隣の方々が300人以上の応援いただいた（写真5）。

このように心身ともに多くのサポーターの方から様々な支援をいただいていることに感謝している。



（写真5）チアリーディング部と吹奏楽団による集団応援  
（2014.10.18 陸上自衛隊立川駐屯地にて）

## ケニアからの留学生の対応

2013年8月に真也加監督の故郷ケニアのキシで行ったリクルーティングの結果、Motanya asimundi Razaraus（写真6）が留学生とし3月28日に来日した。事前に日本語のひらがな、カタカナのテキストを渡し来日時まで覚えてくるように伝えていたが、来日時、ひらがなカタカナが全くできなかった。後日わかることだが、ケニアの母国語スワヒリ語には文字の概念がなくどのように学習していいかわからなかったとのことである。スポーツ科学を学ぶため健康福祉学群健康科学専修に所属した。履修計画は、2年間日本語の習得を中心に行い、その後日本語での授業を履修する運びとなった。1.2セメスターでは、外国語科目の日本語I、英語エレクトィブII、日本語演習、スポーツ実技科目の履修となった。語学、実技科目は1単位であるため春13コマ13単位、秋14コマ14単位

となった。授業開始後、5月21日に日本語の進捗について基盤教育院の日本語担当の先生方とミーティングをおこなった。日本語の習得について様々な問題があり結論としてはチューターをつけ授業を補完することになった。その後、チューターの効果もあり、少しずつ日本語を習得している。夏休みに山梨学院大学の練習・合宿に参加し同郷のエノック・オムワンバ選手と生活してから日本語の上達が早くなり本学の選手ともコミュニケーションが取れるようになってきている。



(写真6) 箱根駅伝予選会にて力走するラザラス選手  
(2014.10.18 陸上自衛隊立川駐屯地にて)

#### 2014年3月から予選会までの取り組み

- 3月15日、入寮式。数日間は環境に慣れるため身の回りの準備と各自で練習。
- 3月18日、初めての全体練習。今後使う尾根緑道に行き真也加監督から説明を受ける。
- 3月19日、午前練習後、淵野辺公園を視察。
- 3月20日、山梨学院大学上田監督に治郎丸コーチの就任報告。
- 3月23日、第37回春の高校伊那駅伝2014(長野県)にリクルーティング
- 3月28日、ケニアからの留学生ラザラス・モタンヤが来日。
- 3月30日、スポーツ報知から取材(桜美林1年だけ16人の挑戦、4/16掲載6面)
- 4月5日、熊本県長距離競技会にリクルーティング
- 4月19日～20日、兵庫リレーカーニバルにリクルーティング
- 5月～8月、高校総体(県・地区・全)リクルーティング
- 5月3日～6日、寮合宿
- 5月21日、基盤教育院日本語担当者とミーティング

- 5月28日, 朝日新聞から取材 (ゼロから いつか伊勢路へ, 6/7 掲載)
- 6月4日～6月16日, 真也加監督, ケニア選手権視察およびリクルーティング
- 7月14日, (株) 大塚製菓栄養勉強会開催
- 7月15日, TAMAYO 氏の栄養講習会開始
- 7月18日, 武相マラソンを支援する会参加
- 7月19日, (株) アリスト栄養講習会開催
- 7月31日, 基盤教育院日本語担当者とミーティング
- 8月5日～6日, ラザラス, 日清食品陸上競技部と練習
- 8月6日～10日, 選手帰省
- 8月6日～14日, ラザラス, 山梨学院大学の練習と合宿 (車山高原) に参加
- 8月11日～13日, 寮合宿
- 8月11日, 長福寺三橋皓揮副住職「なぜ競技を続けるのか」講演
- 8月14日～18日, 山梨学院大学と第一次合同合宿 (長野県野辺山)  
日本テレビから取材 (箱根駅伝関係)
- 8月18日～29日, 本学単独合宿 (長野県富士見高原)
- 8月29日～9月2日, 山梨学院大学と第二次合同合宿 (長野県野辺山)  
日本テレビから取材 (箱根駅伝関係)
- 9月12日～16日, 菅平合宿 (長野県)
- 10月1日, 日本テレビから取材 (箱根駅伝関係)
- 10月2日, 箱根駅伝予選会エントリー
- 10月4日, 陸上自衛隊立川駐屯地にて試走会に参加
- 10月7日, 記者懇談会 (入試広報センター主催)
- 10月7日, 読売新聞立川支局から取材  
(初挑戦 全員1年生 桜美林大学, 10/11 掲載 34面多摩板)
- 10月11日, 日本テレビ「スッキリ」から取材 (10/20 放映)
- 10月18日, 箱根駅伝予選会出場 (日本テレビで地上波生中継)  
日本テレビ「スッキリ」から取材 (10/20 放映)  
読売新聞立川支局から取材  
(桜美林大は健闘 桜美林大初出場 29位, 10/19 掲載 32面多摩板)
- 10月19日～20日, 第69回国民体育大会, 長崎がんばらんば国体にリクルーティング

## おわりに

2013年4月から始まった駅伝プロジェクトは当初目標の箱根駅伝予選会に出場しチーム記録を樹立し歴史に第一歩を記せた。当日は多くの学生, 教職員, 卒業生, 近隣の方が応援にかけつけその数は300人以上であった。このプロジェクトの目的「大学および学

園の一体感およびブランド力の向上を目指す (ONE TEAM)」は、今回の予選会の盛り上がりから貢献できたと考える。しかし、大切なことはこの雰囲気が続けていくことであり、そのためにはチームがさらに強くなり夢の箱根駅伝出場を目指す過程が必要であると考え。2014年の予選会通过記録は10時間14分03秒(10位創価大学)である。本学の記録は11時間06分06秒で52分03秒もの大差があり一人あたり5分以上短縮しなくてはならない。そのためには、選手の育成に加えリクルーティングの強化(奨学金制度の導入など)、練習環境の整備、情報の発信、サポーターの確保など多くの課題が積載している。大学の支援により監督・コーチの確保、寮と食事の整備、練習・合宿での援助など一歩ずつ環境の整備が進んでいる。

2014年の予選会では、一年生だけの出場、山梨学院大学との合同合宿など話題性があり多くの取材を受け報道されたため多くの方が興味関心をもち応援いただいた。その熱い応援・声援は駅伝プロジェクトを立ち上げた意義を実感させ、今後さらに発展させることが大切であることを再確認させてくれた。そのためには、スポーツ推進センターの掲げる「ALL Oberlin」の涵養を大切にしていける必要がある。

最後に、山梨学院大学上田誠仁監督の温かい助言とサポートのおかげでこの駅伝プロジェクトがスタートできたこと感謝いたしております。

#### 引用・参考文献

- 1) 武田一: 清水安三と体育・スポーツ, 桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第4号, (2012)
- 2) 武田一: 本学駅伝プロジェクトの取り組み, 桜美林論考「自然科学・総合科学研究」第5号, (2013)
- 3) 「最終日 累計5位 11分短縮 治郎丸選手が新人賞獲得 駕海選手 敢闘賞」, 西日本新聞, 2009.11.08,  
[http://www.nishinippon.co.jp/nsp/ekiden/2009/oita/kiji/20091108/20091108\\_0001.shtml](http://www.nishinippon.co.jp/nsp/ekiden/2009/oita/kiji/20091108/20091108_0001.shtml)  
(2014.9.15 アクセス)
- 4) 「新緑の町田路, 1700人駆ける…武相マラソン」, YOMIURI ONLINE, 2014.04.30,  
<http://www.yomiuri.co.jp/running/news/20140430-OYT8T50099.html> (2014.9.15 アクセス)  
「陸上人物事典～治郎丸健一～, ～ものまねアスリート芸人・M高史オフィシャルブログ～M高史の日々精進!!」,  
<http://ameblo.jp/monomane-athlete-mikami/entry-11260510388.html> (2014.9.15 アクセス)
- 5) 「第91回東京箱根間往復大学延期激競走予選会」, 関東学生陸上競技連盟,  
[http://www.kgrr.org/event/2014/kgrr/91\\_hokone\\_yosenkai/sougou\\_r.pdf](http://www.kgrr.org/event/2014/kgrr/91_hokone_yosenkai/sougou_r.pdf)  
(2014.10.19 アクセス)
- 6) 「【連載】駆ける思い 九州一周駅伝兼選手紹介〈上〉「走るために九州に来た」大分東明高校陸上部コーチ 治郎丸健一選手」, 西日本新聞, 2009.10.27,

[http://www.nishinippon.co.jp/nsp/ekiden/2009/oita/kiji/20091023/20091023\\_0003.shtml](http://www.nishinippon.co.jp/nsp/ekiden/2009/oita/kiji/20091023/20091023_0003.shtml)  
(2014.9.15 アクセス)

## 要約

2014年10月18日、第91回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会にて本学が初出場を果たした。結果は29位（出場48校）と目標であったチーム記録を残し30番以内を達成した。予選会出場にあたり急遽、教職員、OACU（桜美林大学体育文化団体連合会）の有志で応援団が結成され300人以上の方がコースに散らばり応援をおこなった。加えスタート前後にはチアリーディング部、吹奏楽団が集団応援を行い大いに盛り上がりを見せた。このことはスポーツ推進センターのミッション「大学および学園の一体感およびブランド力の向上を目指す（ONE TEAM）」に向け大きな一歩となった。しかし、大切なことはこの雰囲気が続けていくことであり、そのためにはチームがさらに強くなり夢の箱根駅伝出場を目指す過程が必要であると考え。そのためには、選手の育成に加えリクルーティングの強化（奨学金制度の導入など）、練習環境の整備、情報の発信、サポーターの確保など多くの課題が積載している。大学の支援により監督・コーチの確保、寮と食事の整備、練習・合宿での援助など一歩ずつ環境の整備が進んでいる。

2014年の予選会では、一年生だけの出場、山梨学院大学との合同合宿など話題性があり多くの取材を受け報道されたため多くの方が興味関心をもち応援いただいた。その熱い応援・声援は駅伝プロジェクトを立ち上げた意義と今後さらに発展させることの大切さを実感させてくれた。そのためには、スポーツ推進センターの掲げる「ALL Oberlin」の涵養を大切にしていける必要がある。